



平成26年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年4月28日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 不二家

コード番号 2211

URL <http://www.fujiya-peko.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 櫻井 康文

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務人事本部長

(氏名) 河村 宣行

TEL 03-5978-8100

四半期報告書提出予定日 平成26年5月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第1四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第1四半期	24,912	5.4	461	6.5	631	10.7	339	△4.5
25年12月期第1四半期	23,626	1.3	433	△25.8	570	△15.8	355	△35.3

(注) 包括利益 26年12月期第1四半期 131百万円 (△83.6%) 25年12月期第1四半期 799百万円 (△4.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第1四半期	1.32	—
25年12月期第1四半期	1.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第1四半期	57,135	29,150	49.5
25年12月期	56,628	29,405	50.5

(参考) 自己資本 26年12月期第1四半期 28,285百万円 25年12月期 28,569百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	0.00	—	1.50	1.50
26年12月期	—	—	—	—	—
26年12月期(予想)	—	0.00	—	1.50	1.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	46,000	2.6	200	△17.4	350	△23.6	100	△26.2	0.39
通期	97,000	3.5	1,300	18.5	2,000	11.9	1,200	29.0	4.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年12月期1Q	257,846,590 株	25年12月期	257,846,590 株
② 期末自己株式数	26年12月期1Q	82,984 株	25年12月期	82,756 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年12月期1Q	257,763,783 株	25年12月期1Q	257,765,578 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成26年1月1日～3月31日）のわが国の経済は、各種政策の効果もあり、企業収益が改善し、家計所得の増加が期待されるなど、景気は緩やかに回復する動きとなりました。その中で、高額商品を中心に消費税率引上げ前の駆け込み需要が強まったことにより、一部の個人消費は拡大しましたが、日常的な消費が顕著に回復するまでには至りませんでした。

当社グループが属する食品業界におきましては、消費者の根強い低価格志向の中での他社との販売競争や、円安基調による輸入原材料価格の高騰、電気料金などの値上げによるコストアップ、さらには2月の2度にわたる週末の関東甲信地方を中心とした記録的な大雪の影響などもあり、経営環境は厳しい状況で推移しました。

このような環境の中で、洋菓子事業におきましては、プレミアム製品の開発、販売を進めるとともに、各種のキャンペーンなど販売促進策を積極的に展開しました。また、店舗開発に引き続き注力する一方、広域流通企業との取り組みを継続して進めました。

製菓事業におきましては、消費者志向に合わせた大袋商品の拡販につとめるとともに、「生ミルクィー」などの高品質製品の販売強化にも取り組みました。また、中国での事業を積極的に推進し、売上拡大を図りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、249億12百万円(対前年同期比105.4%)となりました。

損益面では、乳製品や卵などの主要原材料価格が高騰するなど、厳しい状況ではありましたが、生産ラインの稼働率向上や省人省力化に取り組むなど、収益の確保につとめました。営業利益は4億61百万円(対前年同期比106.5%)、経常利益は6億31百万円(対前年同期比110.7%)、四半期純利益は3億39百万円(対前年同期比95.5%)となりました。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当第1四半期連結累計期間		前第1四半期連結累計期間		対前年同期比	増減
		平成26年1月1日から 平成26年3月31日まで		平成25年1月1日から 平成25年3月31日まで			
		売上高	構成比	売上高	構成比		
		百万円	%	百万円	%	%	百万円
洋菓子事業	洋菓子	6,291	25.2	5,816	24.6	108.2	474
	レストラン	1,789	7.2	1,705	7.2	104.9	83
	計	8,080	32.4	7,522	31.8	107.4	557
製菓事業	菓子	15,169	60.9	14,514	61.5	104.5	654
	飲料	1,257	5.1	1,236	5.2	101.7	20
	計	16,426	66.0	15,751	66.7	104.3	675
その他		405	1.6	352	1.5	115.2	53
合計		24,912	100.0	23,626	100.0	105.4	1,286

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

<洋菓子事業>

当社単体の洋菓子におきましては、「北海道純生プレミアムショートケーキ」などの品質にこだわった価値ある製品の販売に取り組むとともに、固定客の来店頻度のアップと新規顧客の獲得を目指した「ミルクィートートバッグプレゼント」などのキャンペーンを継続的に展開しました。また、2月の大雪の影響による店舗売上の大幅な減少があったものの、雛まつり、ホワイトデーセールに積極的に取り組み売上の確保につとめたほか、ギフト商品の品揃えの強化にも注力するなど、売上拡大を図りました。

店舗開発につきましては、引き続き集客力のあるショッピングセンター内への出店を中心に進めた結果、当第1四半期連結会計期間末店舗数は、前連結会計年度末に比べ7店増加し、732店舗となりました。加えて、前期に積極的な出店を進めた郊外型大型店の売上も順調に推移し、売上増加に貢献しました。

コンビニエンスストアをはじめとする広域流通企業との取り組みにつきましては、「ふんわりペコちゃん」や「レーズンサブレ」に加え、企業限定の新製品を積極的に展開したことが、売上拡大に寄与しました。

高級フランス菓子を製造、販売しているダロワイヨにおきましては、新製品「あまおうのマカロン」が大ヒットし、ホワイトデーセールの上場拡大にもつながり、おかげさまで前年同期の売上を大きく上回ることができました。

この結果、ケーキ等の洋菓子類の売上高は、62億91百万円（対前年同期比108.2%）となりました。

家族団欒の場としてご利用いただいているレストランにおきましては、ご好評をいただいているバースデーサービスやケーキバイキングの継続的な取り組みにより競合他社との差別化を図り、売上の拡大につとめました。また、大雪による影響はありましたものの、新聞折り込みの実施や新たに展開した「洋食&スイーツ セレクションメニュー」を毎月投入するなど、積極的な営業施策を展開するとともに、3月にオープンした「宇都宮東武店」の寄与もあり、レストランの売上高は、17億89百万円（対前年同期比104.9%）と、おかげさまで前年同期を上回りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における洋菓子事業全体の売上高は、80億80百万円（対前年同期比107.4%）となりました。

<製菓事業>

当社単体の菓子におきましては、「ピーナッツチョコレート」などのチョコレート大袋商品の売上が引き続き伸びました。また前期に発売しご好評をいただいている、高品質な「生ミルク」の増産体制を整え、女優の前田敦子さんをイメージキャラクターに起用したキャンペーンを展開し、さらなる拡販につとめました。加えて、ネクター発売50周年を記念し、ミルク、カントリーマアムをネクターとコラボレーションさせた新製品を開発するなどの施策を推進し、売上は前年同期を上回りました。

中国において菓子の製造、卸売を行なっている不二家（杭州）食品有限公司につきましては、主力商品である「ポップキャンディ」の内陸中核都市への販路拡大に積極的に取り組み、販売を強化するとともに、春節向けの進物品販売が回復基調となった結果、売上は前年同期を大幅に上回りました。

この結果、菓子の売上高は、151億69百万円（対前年同期比104.5%）となりました。

飲料におきましては、主力の「ネクターピーチ350g缶」が順調に売上を伸ばすとともに、新製品の「プレミアムネクター」や企業限定商品の「ピーチスムージー」の販売が好調に推移しました。加えて、ネクター発売50周年を記念した消費者キャンペーンの効果もあり、売上は前年同期の実績を確保することができました。

この結果、飲料売上高は、12億57百万円（対前年同期比101.7%）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における製菓事業全体の売上高は、164億26百万円（対前年同期比104.3%）となりました。

<その他>

通販・キャラクター事業部のライセンス事業への取り組みや、株式会社不二家システムセンターの受注請負、データ入力サービスなどの事務受託業務の売上が増加したことにより、その他事業の売上高は4億5百万円（対前年同期比115.2%）と前年同期を上回りました。

なお、平成26年2月13日に公表しました株式会社スイートガーデンの株式取得につきましては、平成26年4月1日に同社の全株式を取得し、当社の完全子会社といたしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産は275億75百万円で、主に現金及び預金の増により前連結会計年度末に比べ4億32百万円増加いたしました。固定資産は295億60百万円で、主に有形固定資産の増により、前連結会計年度末に比べ74百万円の増加となりました。

この結果、総資産は571億35百万円で前連結会計年度末に比べ5億7百万円増加いたしました。

また、流動負債は183億32百万円で、主に仕入債務の減により前連結会計年度末に比べ9億99百万円減少いたしました。固定負債は96億52百万円で、主に長期借入金の新規約定や社債の発行により前連結会計年度末に比べ17億61百万円増加いたしました。

この結果、負債は合計279億84百万円で、前連結会計年度末に比べ7億62百万円増加いたしました。

純資産は291億50百万円で、主にその他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の減により前連結会計年度末に比べ2億55百万円減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年12月期の業績予想につきましては、平成26年2月13日に発表した予想の変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,070	13,021
受取手形及び売掛金	12,551	8,537
商品及び製品	3,364	2,865
仕掛品	283	334
原材料及び貯蔵品	2,292	2,075
繰延税金資産	209	208
その他	680	832
貸倒引当金	△309	△300
流動資産合計	27,143	27,575
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,838	6,815
機械装置及び運搬具（純額）	6,955	6,989
土地	2,936	2,936
リース資産（純額）	1,552	1,513
その他（純額）	583	920
有形固定資産合計	18,866	19,175
無形固定資産		
のれん	239	223
その他	291	293
無形固定資産合計	531	516
投資その他の資産		
投資有価証券	6,885	6,750
繰延税金資産	195	192
敷金及び保証金	2,268	2,203
前払年金費用	304	228
その他	649	701
貸倒引当金	△217	△207
投資その他の資産合計	10,086	9,868
固定資産合計	29,485	29,560
資産合計	56,628	57,135

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,565	5,750
短期借入金	4,227	4,305
1年内償還予定の社債	354	494
リース債務	463	460
未払金	4,981	4,538
未払法人税等	405	231
賞与引当金	280	632
店舗閉鎖損失引当金	20	-
その他	2,033	1,918
流動負債合計	19,331	18,332
固定負債		
社債	625	1,413
長期借入金	3,265	4,491
リース債務	1,241	1,207
退職給付引当金	1,430	1,505
長期未払金	790	513
その他	537	520
固定負債合計	7,890	9,652
負債合計	27,222	27,984
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	4,065	4,065
利益剰余金	5,779	5,732
自己株式	△15	△15
株主資本合計	28,109	28,062
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	36	△93
繰延ヘッジ損益	17	4
為替換算調整勘定	406	311
その他の包括利益累計額合計	460	222
少数株主持分	836	865
純資産合計	29,405	29,150
負債純資産合計	56,628	57,135

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
売上高	23,626	24,912
売上原価	12,314	13,104
売上総利益	11,312	11,808
販売費及び一般管理費	10,878	11,346
営業利益	433	461
営業外収益		
受取利息	3	7
受取配当金	47	73
持分法による投資利益	87	69
その他	46	104
営業外収益合計	184	254
営業外費用		
支払利息	28	27
社債発行費	-	25
その他	18	31
営業外費用合計	47	84
経常利益	570	631
特別利益		
固定資産売却益	0	-
投資有価証券売却益	0	-
特別利益合計	0	-
特別損失		
固定資産廃棄損	20	22
投資有価証券評価損	5	0
災害損失	-	12
特別損失合計	26	35
税金等調整前四半期純利益	544	595
法人税、住民税及び事業税	120	187
法人税等調整額	20	2
法人税等合計	140	189
少数株主損益調整前四半期純利益	403	406
少数株主利益	47	66
四半期純利益	355	339

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	403	406
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	210	△129
為替換算調整勘定	171	△132
持分法適用会社に対する持分相当額	13	△12
その他の包括利益合計	395	△274
四半期包括利益	799	131
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	703	102
少数株主に係る四半期包括利益	96	28

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,522	15,751	23,274	352	23,626	—	23,626
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	184	184	167	351	△351	—
計	7,522	15,935	23,458	519	23,978	△351	23,626
セグメント損益(△は損失)	54	1,006	1,060	45	1,106	△673	433

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△673百万円には、固定資産減価償却費の調整額3百万円、のれんの償却費の調整額△15百万円、その他の調整額3百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△664百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,080	16,426	24,507	405	24,912	—	24,912
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	195	195	172	367	△367	—
計	8,080	16,622	24,702	577	25,280	△367	24,912
セグメント損益(△は損失)	186	944	1,131	46	1,177	△716	461

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

- 2 セグメント損益(△は損失)の調整額△716百万円には、固定資産減価償却費の調整額3百万円、のれんの償却費の調整額△16百万円、その他の調整額1百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△704百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。
 - 3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。